

短い秋を

福岡・久留米市
小西なほみ(7)

朝の散歩道の草むらにはもう虫たちが鳴き始めています。ギギー、コロコロと玉を転がすような



神奈川・茅ヶ崎市 大塚文江

鳴き声です。朝や夜の涼しい時間帯に鳴き声を聞く、ほっとします。

セミもクマゼミやアブラゼミに代わって「ツクツクホーシ・ツクツクホーシ」との音が聞こえてきます。夜の月も紺色の

夜空に煌々と黄色の光を放っています。

まだまだ日本には四季があるのだなと実感するこのごろです。

美しい田んぼ

宮城・大崎市
加藤明子(56)

米農家炎天下にも雑草抜き一本ずつの地道で見事

暑い中、たったひとりで田の作業を通りがかりに見まわして、稲穂より高く飛び出た雑草を一本一本地道に抜く姿に心を打たれました。

その作業のあとを帰りに見まわしたら、なんと背丈の整った稲穂たちの美しい田んぼの光景に感嘆

を覚え、歌をよみました。重宝してます

愛知・知多市
花野好子(71)

数年前、知り合いから浴衣地の反物をもらったので、リラックススポンを2本縫いました。

それまで、真夏には半スポンで庭仕事をする私は、足を蚊にくわわって、閉口していました。

この浴衣地の長スポンは、涼しいうえに、汗をよく吸い、洗って干してもすぐ乾くすべれもの。

後継ぎがない今

愛知・蒲郡市 ミッチー(70)

実家で母の介護をしています。私には弟がいま

すが、弟には子どもがいまありませんので、お墓をつくっても後継ぎの人がいません。父が4年前に亡くなり

ましたが、お墓は作っていません。母が亡くなったから、父もともに合同葬で用済みのお墓

話し合い中です

大阪・岸和田市 岸田美代子(7)

子どもたちの墓守への負担をなくしたいと、市やく市民墓ができました

最近、核家族が増え、墓を守るということが薄

れています。第一、多額の費用がかかります。

永代供養は先祖代々と違い、費用は安いと聞

いた。そこにいられてもらおうとおうと思っています。これからは、後継ぎがない人が増え、ますます墓守は難しくなり、実家のように合同墓とか、樹木葬が増えていくのではないのでしょうか。

テーマ

墓守どうする？

ろはその孫に継いでもらおうと思っています。これからは、後継ぎがない人が増え、ますます墓守は難しくなり、実家のように合同墓とか、樹木葬が増えていくのではないのでしょうか。

費用が問題

岩手・北上市 秋野ひとみ(7)

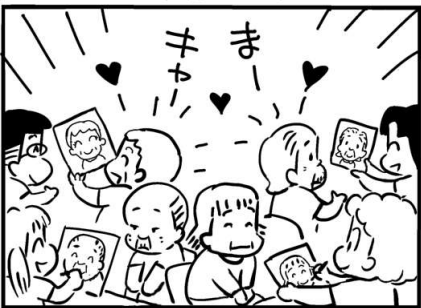
最近、核家族が増え、墓を守るということが薄

れています。第一、多額の費用がかかります。

永代供養は先祖代々と違い、費用は安いと聞

おてんき てんきII

(2026)



読者文芸

あなたも短歌

下村すみよ 選

- 亡き夫に私も言ってみたかった「あなたの二倍あなたが好き」と 広島県 山本菜穂子
「評」NHKの朝ドラ「あまちゃん」のセリフに触発されて、とのこと。ドラマの夫婦に、在りし日の夫君との日々を重ねたホットな一首。
長崎の「被爆クヌノキ」合唱は平和の願い、世界へ響け 愛知県 右高 瑞恵
「評」今年の長崎慰霊の日の大合唱は、長崎出身の歌手福山雅治の作詞作曲した曲であった。ぜひ世界中の人びとに聞いてほしい。と。
片足の鳥居も被爆樹くすの木も長崎に見き歌詞にふるふる 東京都 山口 信子
「評」一首目と同じ曲をテーマに歌詞に着目。長崎探訪の折、実際に目にした二つが歌われていて感激もひとお。「ふるふる」が印象的。
病気にて除隊の父に生涯を「兵役逃れ」の烙印消えず 愛知県 折目 恵子
「評」戦争が終わっても長く続く苦しき。
「作品募集」ハガキなどで編集部「あなたも短歌」係まで。作品は未発表のものに限ります。

川柳
水道からお湯が出てくるこの暑さ
千葉・習志野市 戸辺直久枝(75)
グルメ旅土産代わりの皮下脂肪
大阪市 松本みか

毎日はいて、本当に重宝しています。
大阪・富田林市
若葉 萌(64)

大阪府教育委員会は、府立高校の数を今後15年間で現在の136校から104校程度に減らすことが適正だとする試算をまとめました。
この試算の基準は、従来の「1学年あたり7学級、1学級40人」です。
しかし、一人ひとりの生徒にゆきとどいた教育を實現するには、私の36年

間の教員生活から言えば「1学年あたり4〜5学級、1学級25〜30人」ぐらいが適しています。これならば府立高校はつぶすどころか増やす必要がありません。
少子化をより豊かな教育のチャンスととらえるべきです。

原稿募集
☆テーマ：墓守どうする？/戦後80年と私/故郷ごはん
投稿や作品をお待ちしています。また、紙面への要望・意見などお寄せください。投稿は300字前後、短くする場合もあります。住所・氏名・年齢・電話番号を、匿名希望の方はペンネームを書いてください。掲載した絵手紙は新婦人のSNSに転載する場合があります。
あて先 〒112-0002東京都文京区小石川5-10-20
新婦人しんぶん編集部
ファクス03-5805-2372
Eメール s-press@shinfujin.gr.jp

【お詫言と訂正】8月30日号
テーマ投稿「戦後80年と私」で、鈴木幸子さんの記事の1段落目をさしかえします。
「軍関係の人が優先帰国し、私の家族(父、母、自分)が帰国したのは昭和21年7月。私が奉天で生まれたのは同年2月です。母のきょうだいの家族が帰国したのは翌年3月でした。確認不足で不正確な記事を掲載しましたこと、お詫言して訂正いたします。